

「具体」
「抽象」

から
へ

第一段落

■ 「抽象」の意味

(捨象)

=

大部分の具体的な情報を捨てる

=

抽象

事物または表象のある
側面・性質を抽き離し
て把握すること

=

本質

=

別の多数のものにも共
通する一般的な概念

第二段落

■ 「抽象」についての具体的説明

・好きなキャラクター

↓ 「見える」特徴

|| 「具体的」なもの

↓ 「そういう人」という頭
の中にある漠然とした概念

|| 「抽象」（的なもの）

◎ 人に伝えるには

小説のキャラクター（具体的なもの）というシンボル
を用いる

←

「○○先生のような人」

第三段落

■ 「」のような「という表現の機能

「」のような「

=

抽象的なものを示す機能がある

第三段落

■ 「〜のような」という表現の機能

(例) 「バールのようなもの」

バールに相当する機能を
持ったもの

|| 本質的なもの



集合として大きい

|| 含まれる対象
の数が多い



いろいろなものに適用
できる可能性が広がる

第四段落

■言葉の長所と短所

言葉

=

意味を限定する性質がある

具体的なもの

←

「メリット」

覚えやすい・伝わりやすい

「デメリット」

言葉が示すものの以外のイメージ・ディテールが失われる

第四段落

■言葉の長所と短所

「〜のような」

=

抽象化

|| 捨象 || 本質

←

「メリット」

受け止めた人の頭脳が展開し、想像し、補完するため、情報として多くを伝え、時間が経っても多くのイメージが残る

「デメリット」

覚えにくい・伝わりにくい

◎少数の言葉で意味を限定しないことが重要

第五段落

■抽象的な見方のメリット①

ぼんやりとしたものの見方

|| 抽象的なものの見方



[メリット①]

客観視

公平性

(固定観念を取り除く)

第六段落

■抽象的な見方のメリット②

抽象的なものの見方

↓
抽象的思考



[メリット②]

(メリット①よりも有益)

適用できる範囲が広がり、
類似したものを連想しやすくなる

アイデア (発想力)

↓
チャンス